

付録

文法のまとめ

① be動詞(現在)

暗記例文 I am a student.

(私は生徒です。)

暗記例文 There is a cat under the tree.

(木の下に1匹のネコがいます。)

be 動詞「～である」「(～に)いる[ある]」の現在形には, is, am, are があり, 主語によって使い分ける。

疑問文は be 動詞を主語の前に出す。

否定文は be 動詞の後ろに not を置く。

主語	I	you, 複数	I, you 以外の単数
be 動詞	am	are	is

「～がある[いる]」というときは, < There is[are] ～. > で表す。疑問文は be 動詞を there の前に出す。否定文は be 動詞の後ろに not を置く。

疑問文 Are there many parks in this city?

(この市にはたくさんの公園がありますか。)

— Yes, there are. / No, there are not.

(はい, あります。/ いいえ, ありません。)

否定文 There is not[isn't] a restaurant near here.

(この近くにはレストランがありません。)

② aとan

暗記例文 This is a chair.

(これは1つのいすです。)

This is an egg.

(これは1つのたまごです。)

1つ, 2つ, 3つ…と数えられるものが1つ[1人]のときは, その名詞(ものの名前を表す語)の前に a か an を置く。a と an は次にくる語のはじめの音によって使い分ける。

a a chair(1つのいす)・・・次に子音(母音以外の音)で始まる語がくるとき。

an an egg(1つのたまご)・・・次に母音(アイウエオに似た音)で始まる語がくるとき。

③ 名詞の複数形

暗記例文 I have two brothers.

(私には兄[弟]が2人います。)

1つ, 2つ, 3つ…と数えられるものが2つ[2人]以上のときは, その名詞(ものの名前を表す語)を複数形にする。

複数形の作り方

①ふつうの語	語尾に s をつける	例 brother(兄[弟])→ brothers
②<s, x, ch, sh>で終わる語	語尾に es をつける	例 box(箱)→ boxes
③<子音字+y>で終わる語	語尾の y を i にかえて es をつける	例 city(市)→ cities
④不規則に変化する語, 形が変わらない語	例 man(男性)→ men child(子ども)→ children Japanese(日本人)→ Japanese fish(魚)→ fish	

④ 形容詞

暗記例文 You have a nice bike.

(あなたはすてきな自転車を持っています。)

nice 「すてきな」、long 「長い」、big 「大きい」のように性質や状態を表す語を形容詞という。形容詞は《a[an]など+形容詞+名詞》や、《is[am / are]など+形容詞》の形で用いられる。

《a[an]など+形容詞+名詞》 This is a nice bike.

(これはすてきな自転車です。)

《is[am / are]など+形容詞》 This bike is nice.

(この自転車はすてきです。)

⑤ 一般動詞(現在)

暗記例文 I like baseball.

(私は野球が好きです。)

Yumi likes soccer.

(ユミはサッカーが好きです。)

be 動詞以外の動詞を一般動詞という。主語が3人称単数(I, you 以外の単数)のときは、動詞は語尾に(e)s のつく形にする。

疑問文は主語の前に do[does]を置く。否定文は一般動詞の前に do not[don't]または does not[doesn't]を置く。主語が3人称単数のときに does を用いる。動詞は原形にする。

⑥ 人称代名詞

暗記例文 Look at that boy. Do you know him? He is Tom. His mother is a singer.

(あの男の子を見て。あなたは彼を知っていますか。彼はトムです。彼のお母さんは歌手です。)

単数					複数				
	主格 (～は[が])	所有格 (～の)	目的格 (～を[に])	所有代名詞 (～のもの)		主格 (～は[が])	所有格 (～の)	目的格 (～を[に])	所有代名詞 (～のもの)
私	I	my	me	mine	私たち	we	our	us	ours
あなた	you	your	you	yours	あなたたち	you	your	you	yours
彼	he	his	him	his	彼ら 彼女ら それら	they	their	them	theirs
彼女	she	her	her	hers					
それ	it	its	it	—					

⑦ 命令文

暗記例文 Study English.

(英語を勉強しなさい。)

「～しなさい」と相手に命令する文は、命令文《動詞の原形～.》で表す。

《動詞の原形～.》 Study English.

(英語を勉強しなさい。)

《Don't+動詞の原形～.》 Don't play baseball here.

(ここで野球をしてはいけません。)

《Let's+動詞の原形～.》 Let's play tennis in the park.

(公園でテニスをしましょう。)

《Please+動詞の原形～.》 Please speak English.

(英語を話してください。)

《動詞の原形～, please.》 Speak English, please.

(英語を話してください。)

⑧ 現在進行形

暗記例文 She is reading a book now.

(彼女は今、本を読んでいます。)

「(今)～しています[しているところです。]」と現在行われている動作についていうときは、《is[am / are]+動詞のing形》で表す。この形を現在進行形という。疑問文と否定文はbe動詞の文と同様に作る。

⑨ 疑問詞

暗記例文 What do you want?

(あなたは何がほしいですか。)

Whose camera is this?

(これはだれのカメラですか。)

How many books do you have?

(あなたは何冊の本を持っていますか。)

what「何」、who「だれ」、whose「だれの」、which「どの」、where「どこ」、when「いつ」、how「どうやって」を疑問詞という。文頭に置いて疑問を表す。

⑩ 前置詞

暗記例文 I leave for school at five.

(私は5時に学校へ向かいます。)

at, for, in, onなどを前置詞という。

時を表す前置詞 < at + 時刻 >, < on + 曜日・日 >, < in + 季節・年・月 >の形で表す。

場所・方向を表す前置詞 at school(学校に), by the door(ドアのそばに), in the box(箱の中に), on the desk(机の上に), near his house(彼の家の近くに), under the table(テーブルの下に)

⑪ can

暗記例文 She can run fast.

(彼女は速く走ることができます。)

「～することができる」というときは、< can + 動詞の原形 >で表す。疑問文は主語の前に can を置く。
否定文は一般動詞の前に cannot[can't]を置く。

疑問文 Can she run fast?

(彼女は速く走ることができますか。)

— Yes, she can. / No, she can't.

(はい、できます。/ いいえ、できません。)

否定文 She cannot[can't] run fast.

(彼女は速く走ることができません。)

⑫ 一般動詞(過去)

暗記例文 She studied English.

(彼女は英語を勉強しました。)

「～した」と過去のことをいうときは、動詞の語尾に(e)dをつけた形(過去形)を用いることが多いが、(e)dをつけずに不規則に形が変化する動詞(不規則動詞)もある。

疑問文は主語の前に did を置く。否定文は一般動詞の前に did not[didn't]を置く。動詞は原形にする。

⑬ be動詞(過去)

暗記例文 I was a junior high school student last year.

(私は昨年、中学生でした。)

「～だった」「(～に)いた」というときは、be 動詞の過去形を用いる。be 動詞の過去形には was, were があり、主語が you 以外の単数のときは was, you または複数のときは were を用いる。

疑問文は be 動詞を主語の前に出す。否定文は be 動詞の後ろに not を置く。

⑭ 過去進行形

暗記例文 He was reading a book then.

(彼はそのとき、本を読んでいた。)

「～していました」と過去に進行していた動作についていうときは、< was[were] + 動詞の ing 形 >で表す。疑問文は was[were]を主語の前に出す。否定文は was[were]の後ろに not を置く。

疑問文 Was he studying then?

(彼はそのとき、勉強していましたか。)

— Yes, he was. / No, he wasn't.

(はい、していました。/ いいえ、していませんでした。)

否定文 He was not[wasn't] studying then.

(彼はそのとき、勉強していませんでした。)

⑮ 未来

暗記例文 I will clean my room tomorrow.

(私は明日、私の部屋を掃除するつもりです。)

Emi is going to play tennis tomorrow.

(エミは明日、テニスをするつもりです。)

It is going to rain.

(雨が降りそうです。)

「～するだろう、～するつもりだ」と未来のことをいうときは、《will+動詞の原形》の形で表す。疑問文は will を主語の前に出す。否定文は will の後ろに not を置く。

「～するつもりだ、～しそうだ」と未来のことをいうときは、《is[am / are] going to+動詞の原形》の形で表す。疑問文と否定文は be 動詞の文と同様に作る。

⑯ 助動詞

暗記例文 I must go home.

(私は家に帰らなければなりません。)

「～しなければならない」というときは、《must+動詞の原形》か《have[has] to+動詞の原形》の形で表す。

《must not+動詞の原形》は「～してはいけない」、《don't[doesn't] have to+動詞の原形》は「～しなくてもよい」という意味になる。

「～してもよい」、「～するかもしれない」というときは、《may+動詞の原形》の形で表す。

「～するべきだ」というときは《should+動詞の原形》の形で表す。

⑰ 助動詞を用いた表現

暗記例文 Can I open the door?

(ドアを開けてもいいですか。)

～してもいいですか 《Can[May] I+動詞の原形～?》

Can[May] I open the door?

(ドアを開けてもいいですか。)

～してくれますか 《Can[Will] you+動詞の原形～?》

Can[Will] you open the door?

(ドアを開けてくれますか。)

～するのはいかがですか 《Would you like to+動詞の原形～?》

Would you like to have dinner with me?

(私と夕食を食べるのはいかがですか。)

(私が)～しましょうか 《Shall I+動詞の原形～?》

Shall I open the door?

((私が)ドアを開けましょうか。)

(いっしょに)～しましょうか 《Shall we+動詞の原形～?》

Shall we go to the movies?

((いっしょに)映画(を見)に行きましょうか。)

⑱ 接続詞

暗記例文 I know that he is kind.

(私は彼が親切だということを知っています。)

When I came home, my brother was watching TV.

(私が帰宅したとき、私の兄[弟]はテレビを見ていました。)

and は「～と…」, or は「～かまたは…」, but は「しかし」, so は「それで」という意味を表す。

that 「～ということ」は、know(知っている), think(思う)などの動詞のあとに使われ、that 以下全体で動詞の目的語(「～を」の部分)になる。この that は省略されることがある。

when は「…するとき、～」という意味で、文と文を結びつける働きがある。同じ働きの接続詞に because 「…するので、～」, if 「もし…するならば、～」などがある。

①9 第2文型, 第4文型を用いた文

暗記例文 She looks happy.

(彼女は幸せそうに見えます。)

He showed me a picture.

(彼は私に写真を見せてくれました。)

～に見える << look + 形容詞 >>

The book looks difficult.

(その本は難しそうに見えます。)

〔人〕に〔もの〕を与える << give + 人 + もの >>

We gave Mike a present.

(私たちはマイクにプレゼントをあげました。)

〔人〕に〔もの〕を買う << buy + 人 + もの >>

I bought my sister a book.

(私は私の妹に本を買ってあげました。)

〔人〕に〔もの〕を作る << make + 人 + もの >>

My mother made me a cake.

(私の母は私にケーキを作ってくれました。)

②0 第5文型

暗記例文 I call him Taro.

(私は彼を太郎と呼びます。)

The book made me sad.

(その本は私を悲しくさせました。)

「A を B と呼ぶ」 << call + A + B >>

What do you call this fish in English?

(この魚を英語で何と呼びますか。)

「A を B(の状態)にする」 << make + A + B >>

②1 不定詞

暗記例文 Ken likes to play tennis.

(健はテニスをするのが好きです。)

<< to + 動詞の原形 >> の形で、名詞、副詞、形容詞の働きをするものを不定詞という。

名詞的用法 「～すること」

Ken likes to play tennis.

(健はテニスをするのが好きです。)

副詞的用法 「～するために」「～して…」

Mika went to America to study music.

(美香は音楽を勉強するためにアメリカへ行きました。)

I'm glad to hear that.

(私はそれを聞いてうれしいです。)

形容詞的用法 「～するための」

I want something to eat.

(私は何か食べる(ための)ものがほしいです。)

②2 動名詞

暗記例文 Reading books is important.

(本を読むことは重要です。)

I enjoyed playing soccer with my friends at school today.

(私は今日学校で友達とサッカーをするを楽しみました。)

<< 動詞の ing 形 >> が「～すること」という意味で、名詞の働きをするものを動名詞という。形は進行形で使う動詞の ing 形と同じ。

目的語 Emi likes watching TV.

(恵美はテレビを見るのが好きです。)

主語 Reading books is important.

(本を読むことは重要です。)

補語 My hobby is collecting cards.

(私の趣味はカードを集めることです。)

②③ 比較

暗記例文 Tom is **taller than** his brother.

(トムは彼の兄よりも背が高いです。)

He is **as tall as** my brother.

(彼は私の兄と同じくらいの背の高さです。)

My father is **the tallest** in my family.

(私の父は私の家族の中でいちばん背が高いです。)

《形容詞・副詞の比較級 + **than** …》 「…よりも～」

《**as** + 形容詞・副詞の原級 + **as** …》 「…と同じくらい～」

《**the** + 形容詞・副詞の最上級 + **of[in]** …》 「…の中でいちばん～」

interesting や quickly などのようにつづりが長い形容詞・副詞の比較級は《**more** + 形容詞・副詞の原級》、最上級は《**the most** + 形容詞・副詞の原級》で表す。

This book is **more interesting than** that one.

(この本はあの本よりもおもしろいです。)

Kyoto is **one of the most beautiful cities** in Japan.

(京都は日本で最も美しい都市の1つです。)

good, well の比較級は **better**、最上級は **best** になる。

Tom plays soccer **better than** Bob.

(トムはボブよりも上手にサッカーをします。)

I like English **the best** of all subjects.

(私はすべての科目の中で英語がいちばん好きです。)

②④ 受動態

暗記例文 Odawara-jo was **built** in the 15th century.

(小田原城は15世紀に建てられました。)

I am **called** Tetsu by my friends.

(私は友だちにテツと呼ばれています。)

「(…によって)～される[された]」というときは、《**be** 動詞 + 過去分詞(+ **by** …)》で表す。疑問文は **be** 動詞を主語の前に出す。否定文は **be** 動詞の後ろに **not** を置く。

疑問文 Was the book **written** by him?

(その本は彼によって書かれましたか。)

— Yes, it was. / No, it **wasn't**.

(はい、書かれました。/ いいえ、書かれていません。)

否定文 The book **wasn't** written by him.

(その本は彼によって書かれませんでした。)

②⑤ 現在完了

暗記例文 I **have lived** in this town for ten years.

(私は10年間この町に住んでいます。)

I **have been** to Canada.

(私はカナダへ行ったことがあります。)

I **have just finished** my homework.

(私はちょうど宿題を終えたところです。)

「ずっと～だ」という継続や「(今までに)～したことがある」という経験や「～したところだ」という動作の完了を表すときは、現在完了を用いる。現在完了は《**have[has]** + 過去分詞》で表す。疑問文は **have[has]** を主語の前に出す。否定文は **have[has]** の後ろに **not** や **never** を置く。

疑問文 **Have** you ever **played** the guitar?

(あなたは今までにギターを弾いたことがありますか。)

— Yes, I **have**. / No, I **haven't**.

(はい、弾いたことがあります。/ いいえ、弾いたことはありません。)

否定文 She **hasn't** got to the station yet.

(彼女はまだ駅に着いていません。)

現在完了進行形

I **have been playing** the guitar *for* thirty minutes. (わたしは30分間ずっとギターをひき続けています。)

「ずっと～し続けている」という主に動作の継続を表すときは、現在完了進行形《**have[has]** **been** + 動詞の **ing** 形》で表す。

②⑥ 不定詞を含む構文①

暗記例文 It is important for us to learn English.

(英語を学ぶことは私たちにとって重要です。)

Do you want me to read this book?

(あなたは私にこの本を読んでほしいですか。)

He asked me to help him.

(彼は私に彼を手伝うようにたのみました。)

My mother often tells me to study English hard.

(母は私にしばしば英語を一生懸命勉強するように言います。)

《It is [It's] ... (for + 人) to + 動詞の原形》 「(人にとって) ~することは...である。」

《want + [人] + to + 動詞の原形》 「[人] に~してほしい」

《ask + [人] + to + 動詞の原形》 「[人] に~するようにたのむ」

《tell + [人] + to + 動詞の原形》 「[人] に~するように言う」

②⑦ 不定詞を含む構文②

暗記例文 Ms. Smith let me use the computer.

(スミス先生はわたしにそのコンピュータを使わせてくれました。)

My brother helped me do my homework.

(兄はわたしが宿題をするのを手伝ってくれました。)

He made me go there alone.

(彼はわたしをひとりでそこへ行かせました。)

《let + 人 + 動詞の原形》 「(人) に~させてやる」

《help + 人 (+ to) + 動詞の原形》 「(人) が~するのを手伝う」

《make + 人 + 動詞の原形》 「(人) に~させる」

②⑧ 《疑問詞 + 不定詞》

暗記例文 I don't know what to do.

(私には何をすべきかわかりません。)

Could you tell me how to get to the station?

(駅への行き方を教えてください。)

Do you know where to go?

(あなたはどこへ行くべきかわかりますか。)

I didn't know when to tell him about that.

(私はそのことについていつ彼に伝えるべきかわかりませんでした。)

《what to + 動詞の原形》 「何を~すべき」

《how to + 動詞の原形》 「どのように~すべき」

《where to + 動詞の原形》 「どこで~すべき」

《when to + 動詞の原形》 「いつ~すべき」

②⑨ 間接疑問文

暗記例文 I don't know where she is from.

(私は彼女がどこ出身なのか知りません。)

Please tell me who ate the cake.

(だれがそのケーキを食べたか私に教えてください。)

Do you understand how she feels?

(彼女がどんな気持ちなのかあなたはわかりますか。)

疑問詞を使う疑問文を文中で使うとき、《主語 + 動詞 + 疑問詞 + 主語 + 動詞 ~.》もしくは《主語 + 動詞 + 疑問詞 + 動詞 ~.》の語順になる。このような文を間接疑問文という。

③⑩ 分詞の形容詞的用法

暗記例文 The girl playing the piano is Mary.

(ピアノを弾いている少女はメアリーです。)

I often read books written in English.

(私はしばしば英語で書かれている本を読みます。)

「～している…」は《名詞＋現在分詞～》で表す。

The girl **playing the piano** → playing the piano がかたまりとなって The girl を修飾。

また、「～され(て)いる…」は《名詞＋過去分詞～》で表す。

books **written in English** → written in English がかたまりとなって books を修飾。

③⑪ 関係代名詞

暗記例文 Ann is a girl who[that] sings well.

(アンは上手に歌う少女です。)

Ann has a dog which[that] has big eyes.

(アンは目が大きいイヌを飼っています。)

Ann is a girl (that) everyone likes.

(アンはみんなが好きな少女です。)

This is the book (which[that]) he bought yesterday.

(これは彼が昨日買った本です。)

「(上手に歌う)少女」や「(彼が昨日買った)本」のように〈(主語＋)動詞～〉が名詞を修飾することを表すときは who か which か that を使う。この〈(主語＋)動詞～〉と名詞をつなぐ who, which, that を関係代名詞という。修飾される名詞を先行詞といい、先行詞が人のときは who か that, 人以外のときは which か that を使う。

主格の関係代名詞

Ann is a girl **who** sings well. → who が sings の主語の代わりになっている。

(Ann is a girl. と She sings well. を組み合わせた文。主語 She を who に変えて1つの文にする。)

目的格の関係代名詞

Ann is a girl **that** everyone likes. → that が likes の目的語の代わりになっている。省略されることが多い。

(Ann is a girl. と Everyone likes her. を組み合わせた文。目的語 her を that に変えて1つの文にする。)

③⑫ 仮定法

暗記例文 If I were you, I wouldn't do such a thing.

(もしわたしがあなたなら、わたしはそのようなことをしないのですが。)

I wish I were rich.

(わたしがお金持ちならいいのになあ。)

《I＋主語＋動詞の過去形…, 主語＋助動詞の過去形＋動詞の原形～.》

「もし(今)…すれば、～するのですが。」

《I wish＋主語＋(助)動詞の過去形～.》

「～ならいいのになあ。」

※仮定法では be 動詞は主語の人称に関係なく、原則 were を用いる。